

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月12日
【四半期会計期間】	第26期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	オーウイル株式会社
【英訳名】	O' will Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小口 英器
【本店の所在の場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 管理本部長 栗野 恵介
【最寄りの連絡場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 管理本部長 栗野 恵介
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第1四半期連結 累計期間	第25期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(千円)	7,510,424	25,381,802
経常利益(千円)	128,338	278,356
四半期(当期)純利益(千円)	25,438	181,528
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	12,505	154,817
純資産額(千円)	1,351,753	1,433,746
総資産額(千円)	7,177,569	5,589,288
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	8.08	57.62
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-
自己資本比率(%)	18.0	24.5

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して  
 おりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載して  
 おりません。

4. 第25期より連結財務諸表を作成しており、第25期第1連結四半期累計期間については連結財務諸表を作成し  
 ていないため、記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な  
 変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災に端を発した原発問題により、生産や輸出が減少し、先行き不透明な状況で推移いたしました。加えて、円高の進行や原油価格の高騰もあり、企業収益は低迷し、今後の景気回復への不安材料から、個人消費は引き続き低調に推移しております。

食品飲料業界におきましても、食品原料の高騰により企業収益は低迷し、震災被害による資材不足や電力供給の制約等により生産計画の変更を余儀なくされるなど、企業の経営環境は厳しい状態が続いております。

このような状況下、当社グループは、国内外にサプライヤーを持つ強みを生かし、安心かつ安定的な食品原料及び資材の供給を継続してまいりました。また、営業面においては、取引先のニーズを汲み取り、付加価値のある新規商品を提案など、サービスの向上及び取引先の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,510,424千円、営業利益は122,024千円、経常利益は128,338千円となりましたが、貸倒引当金繰入額を82,004千円計上したこと等により、四半期純利益は25,438千円となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

#### <卸売事業>

飲料市場においては、東日本大震災による社会的なインフラへの影響や資材等の不足により生産計画の変更を余儀なくされましたが、当社グループは、取引先のニーズに応えるべく、国内外から原料資材の確保に努め、安定供給体制を維持してまいりました。飲料メーカーの夏季向け商品の製造増加に伴い、ビタミン類、糖類及び香料等の食品副原料や茶葉類の販売が好調に推移いたしました。また、取引先の拡大に努め、果肉缶詰やピューレ等の農作物加工品等が伸長したことなどから、売上高は7,395,975千円となりました。

#### <製造販売事業>

安心で安全な商品をお客様にお届けするために、品質管理面の強化に注力する一方、NBブランドの強化を図るため、「やさしいあいすくりーむ」のバリエーションを増やし、販売チャネル拡販に努めてまいりました。しかしながら、原材料高騰や消費低迷の影響を受け、販売数量は低調に推移いたしました。その結果、売上高は115,682千円となりました。

#### <その他>

その他において、フランチャイザーの変更に伴いコンビニエンス事業の見直しを行いました。既存5店舗から3店舗に縮小し、収益力の改善並びに店舗運営の効率化に努めましたが、変更に伴う改修工事により営業日数が減少し、結果として、売上高は140,701千円となりました。

- （注）1．当第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っておりません  
2．セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

(2) 財政状態の分析

資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,550,066千円増加し、6,330,730千円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金、商品及び製品の増加によるものであります。また、当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べ38,214千円増加し、846,838千円となりました。主な要因は、投資その他の資産の増加によるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて1,588,281千円増加の7,177,569千円となりました。

負債の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,650,743千円増加し、5,580,517千円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加によるものであります。また、当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末に比べ19,531千円増加し、245,298千円となりました。主な要因は、長期借入金の増加によるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ1,670,274千円増加し、5,825,815千円となりました。

純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ81,993千円減少し、1,351,753千円となりました。主な要因は配当金の支払による利益剰余金の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

記載すべき事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,150,000	3,150,000	大阪証券取引所 JASDAQ市場 (スタンダード)	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は100 株であります。
計	3,150,000	3,150,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	-	3,150,000	-	363,387	-	288,387

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,149,200	31,492	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	3,150,000	-	-
総株主の議決権	-	31,492	-

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。)に基づいて作成しております。
- (2) 前第1四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年6月30日まで)は四半期連結財務諸表を作成していないため、記載を省略しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	657,470	437,014
受取手形及び売掛金	2,853,330	4,215,607
商品及び製品	523,399	837,175
未着商品	379,120	500,645
原材料及び貯蔵品	12,130	13,225
未収入金	294,053	269,581
繰延税金資産	25,863	25,170
その他	39,063	39,260
貸倒引当金	3,768	6,950
流動資産合計	4,780,663	6,330,730
固定資産		
有形固定資産	331,636	342,004
無形固定資産	15,005	11,614
投資その他の資産	461,982	493,220
固定資産合計	808,624	846,838
資産合計	5,589,288	7,177,569
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,980,400	4,631,871
短期借入金	-	150,000
1年内返済予定の長期借入金	52,116	68,772
未払金	703,442	545,986
未払法人税等	66,073	54,479
賞与引当金	36,421	24,000
その他	91,320	105,407
流動負債合計	3,929,774	5,580,517
固定負債		
長期借入金	155,773	176,088
資産除去債務	3,380	3,743
その他	66,614	65,466
固定負債合計	225,767	245,298
負債合計	4,155,541	5,825,815



	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	363,387	363,387
資本剰余金	288,387	288,387
利益剰余金	747,207	678,147
自己株式	20	20
株主資本合計	1,398,961	1,329,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,185	31,519
繰延ヘッジ損益	3,359	3,931
その他の包括利益累計額合計	26,826	35,451
少数株主持分	61,610	57,302
純資産合計	1,433,746	1,351,753
負債純資産合計	5,589,288	7,177,569

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	7,510,424
売上原価	6,928,898
売上総利益	581,525
販売費及び一般管理費	459,501
営業利益	122,024
営業外収益	
受取配当金	1,617
為替差益	5,037
受取手数料	1,657
その他	858
営業外収益合計	9,170
営業外費用	
支払利息	2,746
その他	110
営業外費用合計	2,856
経常利益	128,338
特別利益	
店舗改装支援金	3,000
特別利益合計	3,000
特別損失	
貸倒引当金繰入額	82,004
その他	3,119
特別損失合計	85,124
税金等調整前四半期純利益	46,213
法人税、住民税及び事業税	52,630
法人税等調整額	27,547
法人税等合計	25,083
少数株主損益調整前四半期純利益	21,130
少数株主損失( )	4,308
四半期純利益	25,438

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	21,130
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1,333
繰延ヘッジ損益	7,291
その他の包括利益合計	8,625
四半期包括利益	12,505
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	16,813
少数株主に係る四半期包括利益	4,308

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
投資その他の資産	10,179千円	92,184千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
減価償却費	13,998千円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	94,500	30	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	卸売事業	製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,334,438	35,284	7,369,722	140,701	7,510,424	-	7,510,424
セグメント間の内部 売上高又は振替高	61,537	80,398	141,935	-	141,935	141,935	-
計	7,395,975	115,682	7,511,658	140,701	7,652,360	141,935	7,510,424
セグメント利益又はセ グメント損失( )	137,069	8,271	128,797	6,102	122,694	670	122,024

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニエンスストア小売業を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額 670千円は、セグメント間取引消去 670千円であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	8円8銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	25,438
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	25,438
普通株式の期中平均株式数(株)	3,149,957

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月12日

オーウイル株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 齊藤 文男 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野口 昌邦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオーウイル株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オーウイル株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。